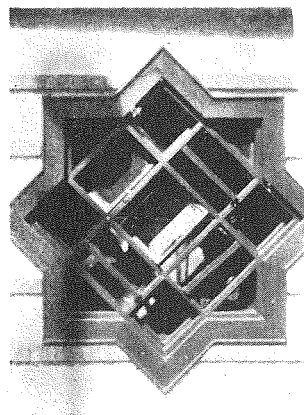
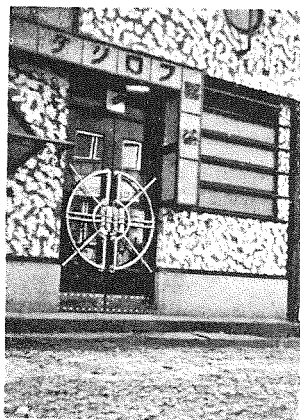


喫茶店風景



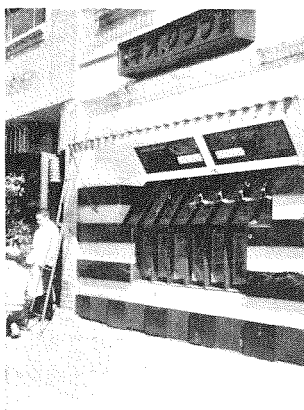
佐藤盛採集・能瀬久一郎詞

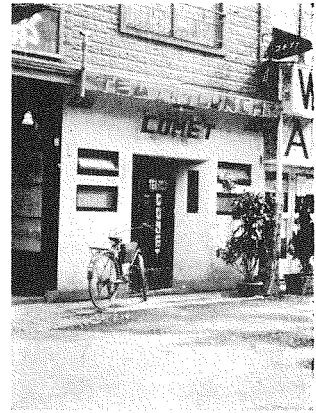


これは若い學徒佐藤盛君の採集によるものでかう方面には不
通な佐藤君だから内部は一向知ることが出来ません。

白のれんに西洋御料理としてあつたカフェーが見られなくな
つたのは極最近の事で、それと同時にミルクホールといふのがな
くなつて喫茶店といふ姿で現はれるやうになりました。神田や早
稲田では軒並に見るのは云ふに及ばず、どこの街中でも郊外のど
んな驛に下りても三軒や五軒の喫茶店や酒場があります。

いづれも如何に低廉にして、しかも人々の目をひくやうに苦心
されてゐるか覗れる。





皆それぞれに千姿萬容心を碎いてゐる。またその店名にも色々な興味をもたせる。植物から地名、人名、山名その他種々雑多であります。いづれその内にテイルームニキビなんて曰ふのが出来はせぬかと思はれます。どういふ名か寫眞によつて一つ一つ見られるのも興味あること、思ひます。

神田のカフェ喫茶街では四五ヶ月も通らないともう半分程は外容が變つてゐる様です。かうして隣同士、向側同士がだまつて客引競走をやつてゐるのです。

